ゴビウスニュースレター

ISSN 1349－1709

しまねっ湖

サンインサンショウウオ　*Hynobius setoi*

CONTENTS

特集・春の特別展……2～3
ゴビウスのなかまたち／シャッターチャンス……4
20 年の歩み ……5
みんなでたのしむいきものガイド……6
こらまたなんだら！／表紙の生きもの……7
イベント報告／インフォメーション……8

No. 70
2021. Spring

ゴビウス開館 20 周年記念 第 47 回特別展

水中世界の20年史

～生きものたちの今むかし～

開催期間：2021 年 3 月 17 日㊌～5 月 10 日㊊

平成13（2001）年４月21日、宍道湖西岸のほとりに島根県立宍道湖自然館が開館しました。あれから20年、たくさんの方がゴビウスに遊びに来ていただきました。開館当初はまだ小学生だった方も、今では大人になってお子さんと一緒に遊びに来てくれている方も多いのではないでしょうか。

オープニング式典（2001年４月21日）

20年の変化を見る

20年の歳月で、人間世界は大きく変化してきました。しかし、それは自然界でも同じです。特に水中世界の変化は、直接観察することが難しいため、変化をとらえることも難しくなります。

以前は普通に見ることができたのに、今では数が減ったもの。逆に以前は少なかったのに、今では数が増えてきたもの。何かのきっかけで大きな話題になり、注目が集まるようになったもの。名前が変わったものなど、今回の特別展は、この20年で水中世界に起きたさまざまな変化について紹介します。

近年、移動してきた〇〇です。

20年の間に、新しく見かけるようになった生きものがいます。ひとつは外来生物、そしてもうひとつが、環境の変化で生息場所を変えてきた生きものたちです。

外来生物

ミシシッピアカミミガメやアメリカザリガニなどは、以前から国内で増えて問題になってきた外来生物です。近年、さらに多くの種類の生きものが簡単に入手できるようになりました。入手が簡単になった分、捨てられるペットも増え、中には野外で子孫を残して定着し始めたものもいます。

うんきゅう

クサガメとニホンイシガメの交雑種。ニホンイシガメの生息域にクサガメが侵入することで、両種が遭遇する機会が増えるとうんきゅうが生まれる可能性が高まります。

アリゲーターガー

北アメリカの河川にくらし、大きなものでは２メートルをこえる大型の淡水魚です。観賞用として輸入もされていました。2011年に松江市を流れる川で発見され、ゴビウスに持ち込まれたものが現在も展示されています。

生息場所が変わってきた生きもの

近年、日本周辺の海水温度が上昇しているというニュースを目にする機会が多くなりました。こうした変化は、異常気象現象として私たちの暮らしを直撃します。同時に、生きものの世界にも大きな影響を与えることになります。

南方の生きものの北上

海水温の上昇は、南方の生きものの生息範囲を拡大、あるいは北上させることにもつながります。島根県でも、夏しか現れなかった南方の生きものが、それ以外の季節でも見られようになったりしています。さらに、海水温の上昇が進むと、魚種が大きく変化して、漁業などにも大きな影響を与える可能性もあります。

クロホシマンジュウダイ

主に熱帯から亜熱帯の内湾や汽水域に生息しています。幼魚が黒潮にのって北上し、太平洋側の沿岸域などで見つかることがあります。島根県では、2012年に出雲市を流れる川で採集されたことがあります。

ソラスズメダイ

オヤビッチャ

話題になった生きもの

水辺の生きものが大きなニュースになることがあります。身近であるはずの生きものが、いつの間にか見かけなくなり、気がつくと絶滅が心配される存在となっていたのは大きなショックでした。最近では、ニホンウナギが絶滅危惧種に指定されたことで大きな話題になりましたが、メダカが1998年に絶滅危惧種に指定されたことも大きなニュースになりました。

キタノメダカ

兵庫県から青森県の日本海側と、青森県の太平洋側に生息します。外見はミナミメダカととても似ていますが、ひれの形や、体色の違いなどから見分けることが可能です。

名前の変遷、今昔物語

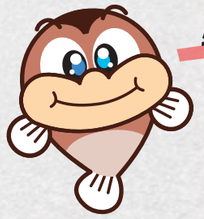
近年の研究技術の発達で、生きものの世界が大きく変わりつつあります。その大きな役割を果たしているのが遺伝子解析です。20世紀の終わり頃から遺伝子を用いて比較する手法・技術が出現し、現在も進歩しています。その結果、外見上からは区別が難しく、１種と思われていたものが実は複数種に分かれていることが判明する、という研究成果が多く発表されています。

また、このことは、私たちの周りにいる身近な生きものたちが、長い年月をかけてそれぞれの地域で生きてきた結果、外見上の違いはなくても、遺伝子上では地域独自の遺伝情報を持った個体群が存在しているということになります。つまり、地域の生きものは、その地域独自の生きものだということです。無計画な放流は、地域の宝を失いかねないのです。

サンインサンショウウオ

身近な水辺にくらすサンショウウオで、以前はカスミサンショウウオと呼ばれ、西日本を中心に広く国内に生息すると考えられていました。しかし、近年、分類の検討が行われた結果、複数の種が存在することがわかり、島根県東部にくらすものはサンインサンショウウオと命名されました。

（佐々木興）



特別展来場特典！ ※いずれも数に限りがあります。

6種類 じゃんけんカード 入館時受付にて

展示ガイドブック 特別展会場にて配布

特別展の水槽を見ながら挑戦してみてね！ 生きもの 20 年クイズ

正解すると オリジナルふせんプレゼント

ゴビウスのなかまたち

淡水のなかま アカハライモリ

アカハライモリは、「よちよちと歩く姿が可愛らしい！」とゴビウスの生きものの中でも特に人気者です。見た目や動きがトカゲに似ているため、トカゲのなかまだと思われがちですが、実はカエルやサンショウウオのなかまです。日本固有種で、沖縄や奄美諸島などを除く、本州、四国、九州とその周囲の島に分布しており、田んぼや水路などの浅い水辺に生息しています。

名前の通り、赤いお腹が特徴的です。この色は警告色とよばれ、毒をもっていることを敵にアピールする役割があります。また、お腹の模様は、個体によって異なり、地域によって赤みが強いものや黒い斑模様が多いものなど様々です。実際に展示している個体も、それぞれ模様が違います。

アカハライモリのお腹の模様や動きに注目すると、また違った魅力を感じるかもしれません。

（森永和希）

水中を歩く様子

黒の斑模様がない

お腹の色がオレンジ色

シャッターチャンス！

クロベンケイガニが、木のてっぺんで陽気なポーズをとっていたので思わずパチリ。下に写り込む必死な様子のもう１匹と競っていましたが、邪魔をものともせず、こちらに軍配が上がりました。4本の脚（第４・５歩脚）で、器用に見事なバランスをとり、他の脚もめいっぱい広げて、とてもご機嫌の様子でした。

普段の彼らの様子を見ていても、どこかへ移動しようと壁を登ろうとしているのか、脚をかけるとっかかりを探す姿を見かけることがあります。水辺と陸を移動する生態からくる行動かもしれません。ここまで決まった茶目っ気たっぷりなポーズを見たのは初めてのことでした。興味深い行動に出会えるかもしれないので、ぜひみなさんも生きものをじっくり観察してみてください。

（大山淳子）

勝利して、頂点で
見事なバランスでポーズ

頂点をめぐって激しい争い

20年の歩み①（全3回）

2001年～2007年

島根県立宍道湖自然館は、2021年４月21日で開館20周年を迎えます。島根県フィールドミュージアム構想のもと、1991年に島根県立三瓶自然館、2000年に島根県立しまね海洋館、そして2001年４月に、３番目の自然系博物館として宍道湖自然館がオープンしました。三瓶自然館は山や森の生きものを、しまね海洋館は海の生きものを、宍道湖自然館は川や湖など身近な水辺の生きものをテーマにしています。

開館１年前の2000年４月から開館準備室が立ち上がり、開館に向けての準備が始まりました。１年という短期間で展示生物の収集、解説パネルの作成などさまざまな業務をこなし、無事オープンを迎えることができました。オープン当日は、開館セレモニーが行われ、島根県知事らによりビオトープ池に地元のメダカ約200匹が放流されました。20年を経た現在もその子孫たちが元気に泳ぎ、お客様の目を楽しませています。

前庭池へのメダカの放流

宍道湖自然館では開館からさまざまなテーマで特別展を開催しており、中でも2005年の特別展では、地元の金魚である「いづもなんきん」を始め、さまざまな金魚を展示しました。各地の愛好家や金魚の生産地として有名な愛知県弥富市の金魚の問屋を訪れ、金魚を収集しました。特別展の開催期間中、夏祭りのような金魚すくいイベントを行いましたが、金魚が元気すぎてすくえない人が続出するというハプニングもありました。多くのお客様にご来館いただき、楽しんでいただいたことは、担当者のひとりとして心に残る思い出です。

金魚すくいの様子

宍道湖七珍のひとつで、繊細で透明なガラス細工のようなシラウオは宍道湖自然館のシンボル的な展示生物として、開館当初から周年展示することを目標としていました。しかし、年魚であること、幼形成熟する特殊な生態のため採集や輸送に細心の注意を要すること等、課題は山積でした。県水産技術センターや地元漁師の協力の下、職員一丸となって定置網や集魚灯、小袋網、刺し網などさまざまな方法を試しながらシラウオを収集しました。時には、早朝の漁師さんからの連絡に対応できるように常に待機していた時もありました。それでも、採集したシラウオの体に傷がつくとすぐに死んでしまい、採集した翌日には生きている個体が半分になり、その翌日にはさらに半分になり、１週間後に残っているのは、わずか10分の１程度になっている状態でした。開館後３～４年はこのようなことを繰り返しながら、採集の回数を重ね、採集や輸送方法を工夫することにより、１月頃から６月頃までの期間限定ながら展示を続けることができるようになりました。

（山口勝秀）

シラウオ収集の様子

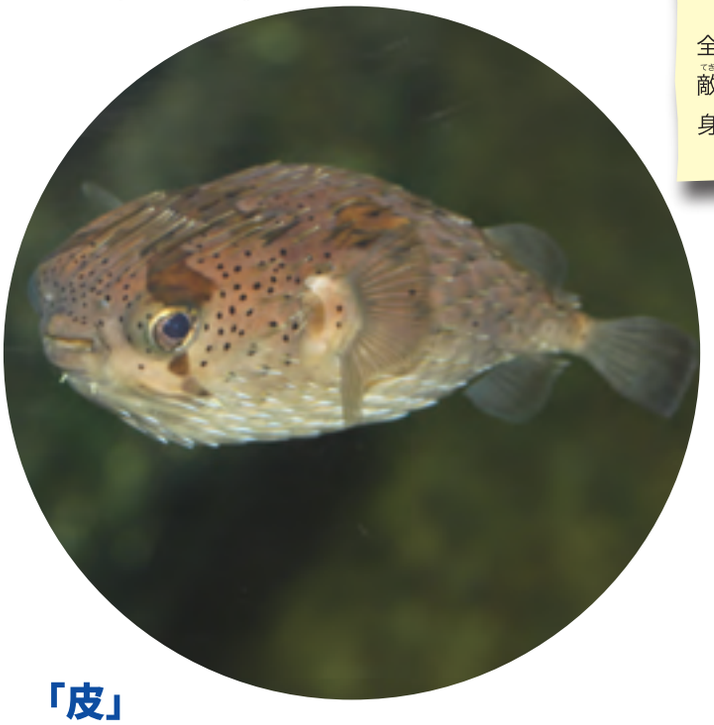
ハリセンボンのひみつ

なまえ：ハリセンボン
生息地：暖かい海のサンゴ礁や岩礁域

全身がかたいトゲにおおわれたフグのなかまです。敵が近づくと体をふくらませて、驚かせることで身を守ります。

「口」

くちばしのような歯でかたいエサでもかじりとるよ。



「皮」

伸び縮みしやすいよ。

「針状のトゲ」

うろこが変化したもので、簡単には抜けないよ。ぜんぶで 400 本ぐらいあるよ。

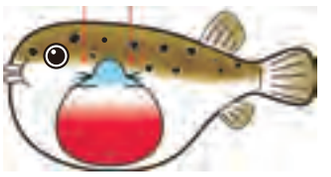
ふくらんだ姿

どうやってふくらむの？

海水や空気をたくさん吸い込み、胃の一部である「膨張のう」にためこむことで大きくふくらむことができるよ。

空気や水を吸い込む

胃のまわりの筋肉をしぼってとじ、水や空気をため込む



（梅原里歩）

こらまたなんだら！ 其の二十四　風とシラウオ

ゴビウスの水槽では、一年中、シラウオを見ることができますが、宍道湖など、自然の中を泳ぐ野生の姿を見る機会は滅多にありません。そんな中、おとなり鳥取県の湖では、春になると、岸のすぐ近くまでシラウオがやって来る、というニュースを聞き、早速、様子を見に行ってみました。

小さな港で出会った地元の方に聞いてみると「もう少し風が吹かないと上がってこないよ」とのこと。確かに、無風の湖面には波ひとつなく、水も澄んでいて水中が良く見えるのですが、シラウオの姿はどこにも見当たりません。昼近くなり、あきらめて帰ろうとした時、ほんのわずかに風が吹きはじめました。沖の方を見ると、静かだった湖面が白く波立ちはじめています。そのうちに、風はますます強まり、波は岸近くまでやってきて、階段状に浅くなったコンクリート部分をザブザブと洗いはじめました。水が激しく波打ち、底に沈んでいた細かな泥が舞い上がりだした時、突然、濁った水の中からシラウオが姿をあらわしました。あちらでもこちらでも、大きく波打つ水面のすぐ下を、何匹ものシラウオが、激しく泳ぎまわっています。なかには、波頭に乗って、打ち上げられそうなほど浅いところまで泳いでくるものもいました。産卵期のシラウオは、数匹のオスがはげしくメスを追いかけるそうですが、目の前で繰り広げられているのは、まさにそんな光景でした。

しばらく続いた波打ち際の大騒ぎも、風が止み、波がおさまると同時に、ピタリと終わりました。その、あまりにもはっきりとした風と波とシラウオの連動は、見事というほかありません。春のこの一大イベントが終わると、シラウオたちは1年という短い一生を終えます。生まれたばかりの小さな赤ちゃんもまた四季のリズムとうまく関わりながら大きく育っていくことでしょう。

（中畑勝見）

表紙の生きもの　サンインサンショウウオ *Hynobius setoi*

もともとはカスミサンショウウオと呼ばれていましたが、近年、分類の検討が行われ、島根県東部から兵庫県にすむカスミサンショウウオは、サンインサンショウウオとなりました。外見は尾に黄色の線が入り、全身は黄土色からこげ茶色の個体が多く、白い粉をふいたような模様が入るものもいます。成長しても11センチくらいの小型の種類で、標高300メートル以下の森林などに生息し、虫やミミズを食べてくらしています。1月から3月に雑木林近くの溝や水たまりなどの水の流れがあまりない場所で産卵し、25日程で孵化します。

このニュースレターが発行される頃に、サンインサンショウウオの幼生を見ることができます。

（原大和）

ミミズを食べるサンインサンショウウオ

サンインサンショウウオの卵のう

イベント報告　～「ジェルキャンドルをつくろう！」編～

2021年２月６日（土）に、年間パスポート会員様限定のイベントを開催しました。レクチャールームだけでは密となるため、となりの図書コーナーも会場とし、間隔を十分にとってご家族ごとに机を配置しました。用意したレイアウト素材は、シジミやサルボウガイ（出雲地方では赤貝とよぶ）、ナミマガシワなど宍道湖・中海に生息する貝の貝殻や砂浜の砂。活用次第で素敵な素材となるね！とのお声をいただきました。

（中野浩史）

ゴビウス生きもの観察会に参加しませんか？

ゴビウスでは毎月１回、生きものをテーマに観察会を開催しているよ♪

5/16 日曜日 10:00～11:30　受付開始 5/2

ザリガニを釣ってしらべよう！

ザリガニってどうやって釣るのかな？大きなザリガニ目指して、ビオトープ池に釣りに行ってみよう！

6/20 日曜日 10:00～11:30　受付開始 6/6

ゴビウスでメダカ博士になろう！

メダカをさがしに出かけてみよう！つかまえたメダカで実験もするよ。知らなかったメダカのひみつが見つかるかも。

定員 申込先着30名

対象 どなたでも（小学生以下は保護者の参加も必要）

お問い合わせ お申し込みは　開催２週間前から電話にてお申し込みください。

TEL **0853-63-7100**

※定員になり次第締め切りとさせていただきます。
※各観察会についての詳細は各観察会チラシでご確認ください。
※観察会情報はホームページでもご覧いただけます。

生きもの情報も発信中だよ！ http://www.gobius.jp/

3回参加でプレゼント！

ゴビウス・グリーンパーク・尺の内公園共通
観察会チャレンジカード

ゴビウス・グリーンパーク・尺の内公園の観察会に参加するとスタンプを押します！
スタンプが３つたまるとオリジナルノートをプレゼントします。
観察会の組み合わせは自由！

新型コロナウィルス感染拡大予防のため、県の対応方針に伴いイベント等が中止になることがあります。ご来館の際は、ホームページにて最新情報をご確認いただきますようお願いいたします。

ご来館案内

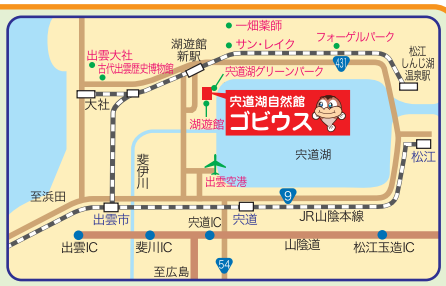
みなさんのご来館お待ちしています。

●入館料／大　　人…500円（400円）
　　小中高生…200円（160円）
　　※（　）内は団体20名様以上の料金

●年間パスポート／大　　人…1,400円
　　小中高生……500円
　　ご家族で同時にご購入いただくと２割引になります。
　　大人 1,120 円、小中高生 400 円。
　　※割引の適用は同居のご家族に限ります。他の割引との併用不可。

●開館時間／9:30～17:00（最終入館は16:30）

●休館日／火曜日、年末（12月28日～12月31日）
　　※火曜日が祝日の場合は、その翌平日が休館日となります。



●一畑電車湖遊館新駅より徒歩10分 ●出雲空港より車で10分
●山陰道宍道インターより車で15分

●駐車場／100台（無料・トイレ完備）

ゴビウスニュースレター しまねっ湖　No.70
発行日／2021年4月10日
発　行／島根県立宍道湖自然館ゴビウス（管理運営：ホシザキグリーン財団）
〒691-0076　島根県出雲市園町 1659-5
TEL 0853-63-7100　FAX 0853-63-7101
URL www.gobius.jp/　E-mail gobius@gobius.jp

■動物取扱業に関する表示
氏名または名称：公益財団法人ホシザキグリーン財団
事業所の名称：島根県立宍道湖自然館
動物取扱業の種別：展示
登録番号：第073102040号
登録年月日：2007年5月17日
登録有効期限：2022年5月16日
取扱責任者：中野浩史

古紙パルプ配合率80%再生紙を使用
本誌は地球環境に優しい植物油インキを使用しております。
VEGETABLE OIL INK
植物油インキは、大気汚染の原因となるVOC（揮発性有機溶剤）の削減および再生紙処理の優位性が高い成分です。